

■本質的価値について（前回資料4） ※**1**と**2**については特に意見無し

3政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物について

○文中の「桃山期の特色ある御殿群」は、「桃山期の特色を受け継ぐ御殿群」といった表現に直した方が良い。（菊池副委員長）

○金箔瓦単独ではなく、それを含む遺物群がトータルとしてあることが重要。

（北野委員長）

<造酒屋敷跡の評価について>

○造酒屋敷を城内に置いたことは、例外的かつ意図的なもので、検討の余地はあるが政宗が関与した可能性は高い。その意味では政宗らしさとする考えもあり得る。

○ただし、榎森家が18世紀以降城内にいたのは発掘調査成果から間違いないものの、最初からその場所にいたのかは、現在調査成果の総括を行っているところでもあり検討の余地がある。

○造酒屋敷跡の評価は、築城期（*軍事的緊張状態にあった時期*）の大手をどう考えるかと大きく関わる。造酒屋敷に接する異門ルートが築城期の大手であった場合、なぜ防御上の重要地点に造酒屋敷を置いたのか、評価の仕方によってはその場所の性格が大きく転換したともいえる。その歴史的な意味を考える必要がある。（以上、藤沢委員）

4自然環境との高い一体性について

○ここでは、広瀬川や竜の口溪谷といった自然地形を巧みに縄張りに取り込んだ自然環境と城郭との一体性を価値として評価しているものの、人が自然を利用する知恵や具体的な姿が見えている景観という観点はここに入らず、5番の中に入っている。

（北野委員長）

○仙台城の外堀ともいえる広瀬川を本質的価値として評価するのであれば、広瀬川をどう保全し保護するかを計画に入れないと、自然環境との高い一体性という価値づけと齟齬が生じるのではないか。（菊池副委員長）

5時代を反映した城郭構造と歴史的眺望について

○歴史的眺望という言葉が一般的に分かりづらい。城郭の歴史的背や城郭全体の景観をふくむ全てを歴史的眺望という言葉で整理できるのか、検討を要する。

また、二の丸については、単に平城的性格をもつというだけではなく、その造営以後、敷地を拡張しつつ藩政に関わる施設が飛躍的に充実し、江戸時代を通じて維持され完成されていったという、藩の中核としての役割を強調すべき。この最後の文章では、眺望だけに主眼がいつってしまうのではないか。（藤沢委員）

○城郭構造を眺望だけでまとめているような印象を受ける。藩庁組織としての行政機構を二の丸が揃えているという点を文章化すべき。（菊池副委員長）

○本来4番に入れてもよい景観の観点が5番に入っているが、最後、眺望ということばでまとめてしまっている。歴史的景観と歴史的眺望は書き分けずに眺望という言葉を広大解釈するという方法もあるのではないか。（北野委員長）

■本質的価値と整備の課題および考え方について（前回資料5）

<活用面への配慮>

- 本質的価値ごとに課題と整備について検討していくと、ハード面の整備が中心になりがち。ガイドボランティアの活用など多様なニーズに応えるための活用手法の課題といった点が全部抜け落ちてしまわないか懸念される。（北野委員長）
- 学術的価値以外のものは本質的価値とみなされないのか疑問。これでは活用の部分が抜け落ちるのではという危惧がある。（今野委員）
- 課題の整理については、再度、保存活用計画の内容を見直し、これまでの具体的な検討内容についてもチェックする必要がある。学校教育との連携や地域団体、その他の団体と連携して価値を顕在化していくような課題も、3章で最初に取り上げるべき。（北野委員長）

<全体的なつながりの検討>

- 本質的価値を5点に分け個別に整理していくと、逆に全体のつながりが見えづらい。例えば、本質的価値の要素である各遺構を活用するための見学ルートの整備やそれを活かすための体制整備といった観点を入れるべき。また、以前に議論した基本方針にも、安全・安心・快適な城内環境の実現を目指すとあり、その辺りもしっかりと書いた方が良い。
個別のテーマで整理するだけでなく、もう一度全体を見て抜けている部分を確認すべき。（藤澤委員）
- 本質的価値が5点にまとめられ理解しやすくなった一方で、細切れになってしまった印象を受ける。本質的価値と課題の整理についても、第3章から第5章への整合性が取れるよう編集すべき。（馬場委員）

<わかりやすい表現>

- 「城郭構造」、「城郭を構成する」、「城郭の基本的形状」の使い分けが分かりにくい。補助文必要。（馬場委員）
- 全体の文言を統一し、場合により説明書きを付けた方が良い。用語解説を付けることも検討してほしい。（北野委員長）



■前回意見等をふまえた主な検討課題

- ① 全体的な視点からの本質的価値の検討
→上位計画等における仙台北城跡の位置づけ（期待される役割）の確認
- ② 本質的価値の構成・内容に関する検討
→景観・眺望にかかる価値の取り扱いについての検討
→活用面に配慮した本質的価値の検討
- ③ 本質的価値における造酒屋敷跡の歴史的評価に関する検討
→成立年代、性格など政宗との関わりについての検討（調査成果の総括）
- ④ 保存活用計画での整理を踏まえた課題の整理
→全体的課題と個別的課題の整理